

【給食協会賞】給食ってすごいね

里町小学校 久田 己斗

ぼくは、大きな声では言えないけど、食べ物好ききらいが多いです。肉や魚は好きだけど、野菜や果物は苦手です。きらいな物は、全然食べれないわけじゃないけど、食べ切るまでにちよつと時間がかかります。その事で、よくお母さんから注意されます。

「早く食べなさい。野菜や果物もちやんと食べないと、大きくなれないよ。」

「わかってるよ。そのうち食べるから。」

ぼくは、はしで、しいたけとパイナップルをこうごにつつきながら言いました。

「そんなこと言って、なかなか食べようとしなないじゃない。給食の時にきらいな物がでたら、時間内に食べきれないじゃないの？」

お母さんが、ぼくをにらみながら言ったので、ぼくは、

「それがさ、給食だと食べれるんだよ。」

と、ちよつと得意げに言いました。

ぼくは不思議でした。家のご飯できらいな物が入っていると、食べるのにすごく時間がかかるのに、給食できらいな物が入っていてもちやんと時間内に食べ切れるのです。どうしてかな？給食のこん立をよく思いだしてみました。

給食に入っている野菜はすごく小さく刻んであります。ぼくがきらいな、しいたけやたけのこやね

ぎは、あまり目立たなくて小さくなっていきます。そして、そのひとつひとつの味もあまりわからないです。こん立の味付けになっていて、きらいな物が口に入っている感じがあまりしません。

きつと、給食センターの人達が、きらいな物でも食べやすいように一生けん命考えて作ってくれているからだと思えました。それに、みんなと給食の準備をしたり、放課に遊んだ話をしたりしながらいっしょに食べていると、楽しくて、いつの間にか苦手な野菜や果物も食べてしまっているのです。

その事をお母さんに話すと、

「お母さんも、同じ事があったよ。給食ってすごいね。」

と言いました。ぼくもそう思いました。そして、給食の時にきらいな物が食べれるように、いつでもどこでも、好ききらいなく食べれるようになるといいなあと思いました。